

レビュー研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫		
	タイプ			
タイトル情報	論文の英語タイトル	Therapeutic node dissections in malignant melanoma		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）		
	ガイドライン上での目次名称	MMC Q-13-1		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ I ）		
	Pubmed ID			
	医中誌 ID			
	雑誌名	Ann Surg Oncol		
	雑誌 ID			
	巻	5		
	号	6		
	ページ	473-82		
	ISSN ナンバー			
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 1 ）		
	発行年月	1998		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Karakousis, C. P	Department of surgery, State University of New York
その他著者 1				
その他著者 2				
その他著者 3				
その他著者 4				
その他著者 5				
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

レビュー研究の6項目	目的	メラノーマにおける治療的リンパ節郭清の文献的レビュー
	データソース	記載なし
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	TLND 後の 5 年生存率は 19～38%、平均 26%であった。 組織学的に転移陽性のリンパ節の数、リンパ節の被膜外浸潤の有無が予後を規定する最も重要な因子であった。また、所属リンパ節内における転移の進展度、リンパ節の癒着、再発までの無病期間、原発腫瘍の厚さ、部位、潰瘍化なども予後に影響を与えられた。 TLND 後の局所再発率は 0.8%～52%であった。 インタフェロン α-2b による術後補助療法で 5 年生存率は 26%から 37%に改善していた
	結論	TLND により明らかな生存率の改善が望める。適切な術後補助療法の併用により生存率のさらなる上昇が期待できる。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	高田 実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ I ） 1998 年の論文でやや古いですが、術前検査、TLND の手術手技、合併症、予後因子、術後経過観察の方法などが詳しく述べられた優れた総説である。